

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

AGU News



AGUニュース第56号 [2011年4月~5月号]

2011 青山学院大学

No. 56

広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL. 03-3409-8111(代表)
URL. <http://www.aoyama.ac.jp>

特集 学生座談会

クラブ・サークルに不可欠な “地の塩”の存在感

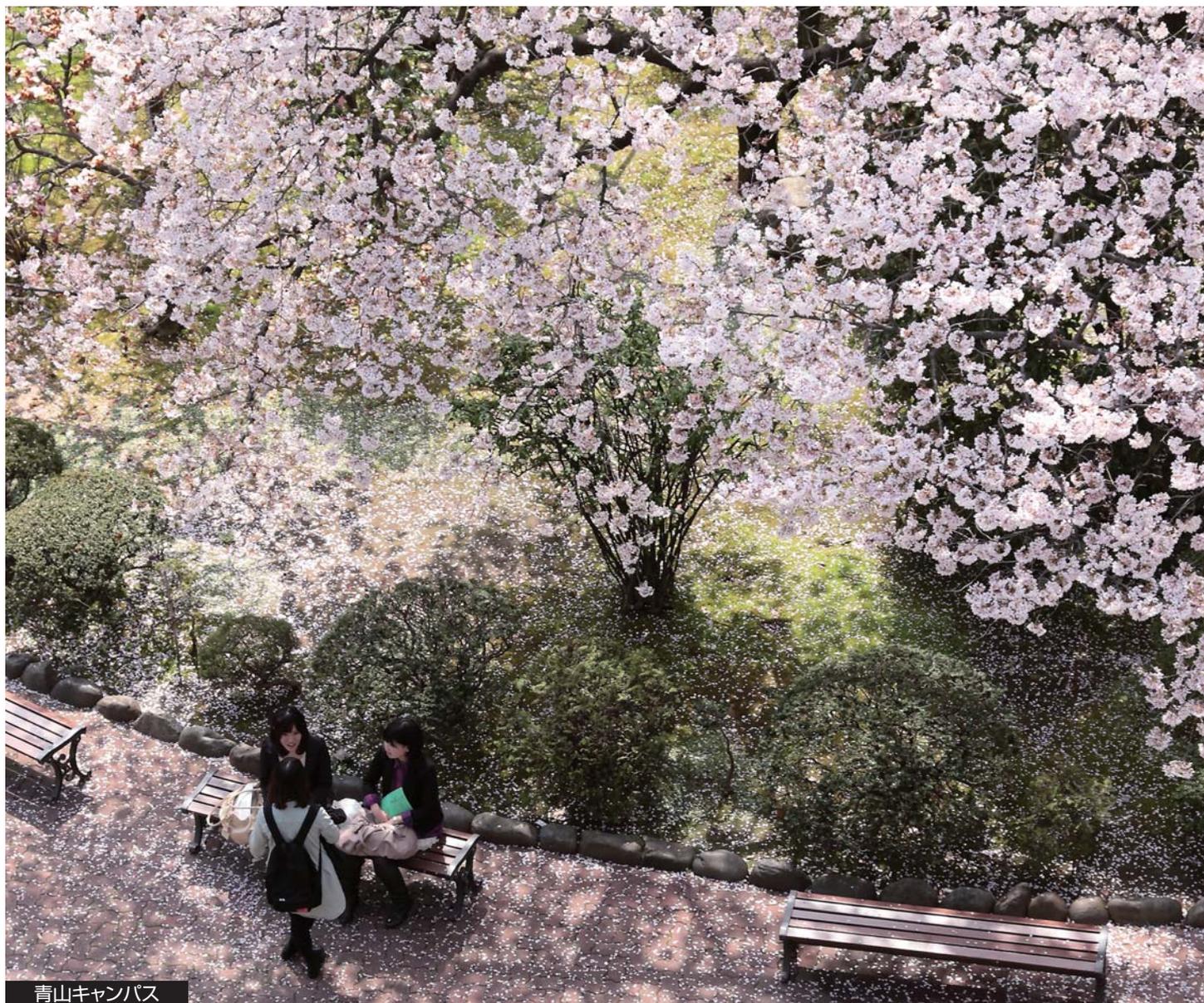
学生生活をより充実させるために

- クラブ・サークル ●キャンパスツアーボランティアグループ
- 青山学院チャットルーム ●アドバイザー・グループ

青山学院大学の進路・就職支援について

報告・お知らせ 経済学部校友(卒業生)の石樽利光氏がスロベニア大使に就任
青木保教授が中国の北京外国語大学から名誉教授の称号を授与される
有志の学生によるネパール・クリーンアップ・プロジェクトを開催
戦略経営・知的財産権プログラム開設記念講演会を開催
卒業生へのメッセージ
2011年度 学年初頭行事について

INFORMATION 2011年度 青学オープンカレッジについて
青山学院 エバーグリーン募金のご案内
2011年度 一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験志願者数
2011年度 オープンキャンパス開催日程



青山キャンパス

クラブ・サークルに不可欠な “地の塩”の存在感

青山学院のスクール・モットーは「地の塩、世の光」。世の中を明るく照らし、より良い方向へと導く“光”の背景には、目立たないながらも、重要な役割を担う“塩”の存在が必ずあります。今回の座談会には、箱根駅伝において2年連続のシード権獲得を成し遂げた「陸上競技部」と、4年振りに関東大学対抗戦のAグループへの昇格を果たした「ラグビー部」で、それぞれ“緑の下の力持ち”である主務を務めた2人の学生が登場。さらに取材を通してクラブ・サークルの活躍を広く伝える「新聞編集委員会」、選手たちの力となる力強い声援を送る「応援団」の代表者も加え、クラブ・サークル活動を通じて経験した数々のエピソードを聞きました。

——今日は、クラブ・サークル活動において重要なポストで活躍している方々に集まってもらいました。まずはそれぞれの所属団体の活動内容と自身の役割を教えてください。

君島 陸上競技部では、正月の箱根駅伝を最大目標に、朝は5時に起きて練習、夜は22時に就寝するスリックな生活を町田寮で送っています。部全体が一丸となって練習・日常生活に向きあった成果として、2010年度は創部以来初めて出雲駅伝に出場し、箱根駅伝でも2年連続のシード権を獲得できました。

私は2年生の夏に選手から主務に転身し、

さまざまな事務業務、取材の窓口業務など、チームの後方支援に携わりました。

浦井 ラグビー部はちょうど私が入学した年に、それまで長年所属していた関東大学対抗戦のAグループからBグループに降格しました。その後、毎年入替戦までは進むものの、あと一步で昇格できないという状態が続きましたが、それでも2010年度によりやく入替戦に勝利し、Aグループに返り咲くことができました。

私は3年生で副務、4年生で主務を務めました。監督や主将とは違った視点から、どうすればチームが勝利できるかを常に考えていたので、Aグループ昇格を果たせてホッとしています。



陸上競技部 国際政治経済学部4年
君島 健太君



ラグビー部 経済学部4年
浦井 亮介君



新聞編集委員会・第一部卒業アルバム委員会 法学部4年
加藤 惇也君



加藤 『青山学院大学新聞』を年10回発行している新聞編集委員会では、情報集め、取材、写真撮影、記事作成、編集、発送などの業務をすべて学生の手で行っています。2年生の秋から委員長を務め、新聞制作の実務とともに、学友会運営委員会にも携わり、学生の課外活動全体に関わる役割も担いました。

また3年生で役職引退となるため、それからは第一部卒業アルバム委員会に所属し、委員長を務めました。新聞の取材等で得た人脈とカメラ撮影の経験を見込まれて大学側から声をかけていただいたのですが、みんなの力でひとつのものを作り上げる喜びは新聞もアルバムも同じな



応援団 総合文化政策学部3年
霜垣 真由美さん

ので、とてもよい経験ができたと思っています。

霜垣 応援団は、みなさんもイメージされている通り、運動部の応援が主な活動内容です。ただし、学ランを着て、リーダーを振るといった目立つ部分だけでなく、本番までの段取りや準備も大切にしています。現在は最上級生の私が団の運営を担っていますが、応援団の目的は、スポーツ応援を通して、そのチームだけでなく“青山学院大学全体”を活気づけることです。そのためスポーツ応援に限らず、学校行事や学内におけるボランティア活動などにも積極的に参加しています。

——陸上競技部とラグビー部も新聞編集委員会や応援団とは、かなり積極的な交流があったのでしょうか。

君島 そうですね。取材を受けて記事に取り上げていただいたり、駅伝当日は応援団を筆頭として、多くの方々に盛大な応援で盛り上げていただいたりと、本当に多くの方々に支えられていることを実感できました。また、選手たちも周囲から注目されていることを意識できるの

で、それが大きな力になりました。

浦井 私も取材依頼の窓口を務めました。取材されるのは本当にうれしいことでした。とくに最近はラグビー人気が下降気味なので、知名度を少しでもアップさせるためにも記事にもらえるのはありがたかったです。取材が入ることを選手たちに伝えると、いつもみんな喜んでいました。

加藤 新聞を作る側としては、いつも貴重な時間をいただいて恐縮しながらの取材でしたので、「力になった」「ありがたかった」と言っていたら本当によろしいです。

浦井 ただ、応援団はラグビーの試合で見たことがなかったです…。

霜垣 すみません。いま部員が6名しかいないので、なかなかすべての競技の応援に行くことができて…でも、今回ラグビー部の方の話聞いて、ぜひ応援に行きたいと思いました。

浦井 試合日程を伝えるよう後輩に言うので、来年度は応援に行ってください(笑)。

霜垣 はい。Aグループ上位にいけるように、少しでも貢献したいと思います。



——近年のみなさん共通の大きな話題といえば、やはり「箱根駅伝」でしょうか。

加藤 2009年の「33年振り箱根駅伝出場」はインパクトがありましたね。正直、本学が箱根駅伝に出場するなんて考えてもいませんでした。紙面を構成するのに、箱根駅伝をどう取材すればいいのか何もノウハウがなく、青山スポーツと卒業アルバム委員会と連携しての取材は、統括役ということもあり大変でしたが本当によい経験になりました。あのときは号外も発行しましたし、読者から大きな反響があったことを覚えています。

君島 実は「箱根」のノウハウがないのは、我々選手も同じでした。33年振りとはいえ、ほとんど初出場のようなものでしたから。いま思えば、監督も選手も手探りで大会に出場した感じだったかもしれません。でも「箱根駅伝に出場した」という経験は大きく、本当にチームの“財産”になりました。その成果は、翌年以降2年間のシード権獲得という成績に表れていると思います。

霜垣 応援団にとっても「箱根」は特別です。とにかく人の多さに圧倒されました。青学の学生、卒業生などの関係者はもちろん、家族が青学関係という人から通りかかった一般の人まで、本当に大勢の人が一体となって応援しました。私たちが応援をリードするわけですが、どんどん盛り上がっていくのが自分でも分かりました。普段6人で活動していることもありますが、大人数でのあの一体感はなかなか体感できません。「箱根」を通じていろいろな人と繋がりが合うことができたと思います。

浦井 他の運動部の活躍は自分たちにとっても大きな刺激になります。陸上競技部の33年振りの箱根駅伝出場、そしてその後のシード権獲得の快走は、私もうれしく、ずっとテレビの前で応援していました。

先ほど、「箱根駅伝に出場したときの経験が後に生きた」との話がありましたが、やはり“本番”は独特の雰囲気なので、いかに自分の力

を出し切れるかが勝負です。実はラグビー部でも、Bグループに降格してから「入替戦」という独特のムードに圧倒されていた部分がありました。Bグループでは圧勝を続け、自信を持って試合に臨むのに、何故か当日の雰囲気に飲み込まれていたのです。今年度は過去の経験もありましたし、それ以上に強い気持ちで試合に臨んで昇格を決めることができました。本番で力を発揮することの苦労を知っているだけに、本番の「箱根」で結果を出せる陸上競技部はすごいと思います。

君島 確かに選手たちの強い気持ちもありますが、やはりその気持ちを支えてくれたのは、たくさんの方々の声援でした。箱根駅伝に出場したことで、自分やチームを支えてくれる方々の存在に気づくことができたのは本当によかったと思います。



——日々の学生生活で苦労したことや、大変だったことはありますか。

霜垣 私は総合文化政策学部の一学期生なので、先輩がいない不安があります。これから就職活動も本格化しますが、自分たちがパイオニアになるので、期待と不安が半々です。それでも个性的で頼れる先生方が多いことは心強く感じています。実は私が応援団に入ったのも、学部長であり、応援団の顧問でもある杉浦勢之先生からの勧誘があったからです。最初は「女の子が応援団?」と思いましたが、いろいろな経験を積めたこともあり、いまは感謝しています。

君島 最初は選手として陸上競技部に入部したので、なかなか記録が伸びなかったときはつらかったです。そして何より、監督から主務への転向を打診されたときも、本当に悩みました。ただ監督から主務に指名されたのは、自分に何か適性を見出していたからだと前向きに考えたんです。決断したからには徹底してやろうと思い、主務になってからはひたすらチームに貢献することに集中しました。

浦井 ラグビー部では選手と主務は兼任なので、みんなと同じ時間練習をしたうえで主務の仕事がプラスされる形になります。結構時間も取られるし、選手と主務の両立は想像していた以上に大変でした。それでも主務をしたからこそ経験できたことがたくさんあります。例えば、主将や副主将よりも多くの人と知り合い、つながりを持つことができました。ラグビー部を応援してくださる方々の思いを直接肌で感じることでできてうれしかったです。

加藤 新聞を発行した後で、記事にミスが見つかったときは本当に落ち込みます。関係各所にお詫びにいたり、最悪のときは配布分をすべて回収したうえで刷り直しもしました。一文字一文字の大切さを身をもって体験しました。

君島 スポーツ競技だけでなく、例えば新聞作りも同じでしょうが、何か成果を追い求めるときには、つらいことの方が多いと思います。日々の練習や規律に厳しい生活など、90%ぐらいはつらい経験かもしれません。でもつらければつらいほど、よい結果が出たときの喜びは何倍にも大きく感じられるんです。

浦井 その通りですね。入替戦に勝利してA



写真提供：陸上競技部、ラグビー部、新聞編集委員会

グループ昇格が決まった瞬間は、もう号泣しました。それまでの忙しく大変な主務の仕事も、あの1勝によってすべて報われたと思っています。

加藤 確かに紙面に掲載できる記事がないときに、あちこち歩き回ってようやく見つけた記事には愛着がわきます。それに「箱根」の取材のように、正月休みを返上して大変な思いをして作った新聞が、多くの人に読まれて反響があったりすると、いつもの何倍もうれしかったですね。



——あらためて青山学院大学の印象を聞かせてください。

浦井 とにかくキャンパスがきれいです。とくに相模原キャンパスを初めて見たときは驚きました。

加藤 相模原キャンパスの美しさには確かにびっくりしました。ゆったりとした敷地に緑も多く、絵に描いたようなキャンパスです。

霜垣 総合文化政策学部は青山キャンパスでの活動が中心なので、相模原で学ぶ期間が短かったのは、少し残念です。ただ私は中等部から10年間「青山」で過ごしているので、「青山」の雰囲気はとてに気に入っています。10年通っている経験から言えば、青学には個性の強い人が集まっていると感じています。そして同時に、その個性をお互いに受け入れる土壌があると思います。

加藤 入学前は、もっと軽い学生が多いイメージが強かったのですが、入学してみると思った以上に真面目でしっかりとした意志を持っている人が多いと感じました。それとチャレンジ精神旺盛な人には「何でもやってみる!」と大学が背中を押してくれる雰囲気や優しさを感じます。

君島 私も青学には、学生を粹にはめることなく、個々の個性を伸ばす学びの場があると思いました。全体的にはノビノビとした雰囲気、過ごしやすいキャンパスですね。

霜垣 学生だけでなく個性豊かな先生方の存在も青学の大きな魅力のひとつだと思います。

君島 大学での4年間は本当にあっという間でした。私の場合は陸上競技部での活動が大学生活の大きな部分を占めましたが、もし時間



があったなら、もっと多くの先生方や学生たちとも知り合いたかったですね。

——所属団体での中心的役割も今後は後輩に引き継ぐこととなります。後輩たちへのアドバイスやメッセージをお願いします。

君島 自分を支えてくれる仲間や家族、支援者の方々の存在を意識することが大切です。日々の小さな努力を継続すること、自分ができていることを着実にこなすこと、そして何事にも地道に取り組むこと。決して派手ではない地道な努力こそ、自分を成長させるために必要だと思います。陸上競技部は、多くの人に支えられていることを部員全員が理解して走っています。その思いを忘れることなく、これからも走り続けてもらいたいです。

浦井 ラグビー部は自分たち4年生よりも後輩たちの方がしっかりしているので、来年度以降も何も言わなくても頑張ってくれるはず。ただし来年度はAグループで早稲田大学、帝京大学など強豪校と戦うことになります。どの試合も厳しい戦いになると思いますが、Aグループ残留などという小さな目標ではなく、大学選手権出場をめざすぐらいの気持ちでぶつかってほしいです。青山キャンパスからも近い秩父宮ラグビー場での試合もあるので、みなさんも全力でプレーするAGR(青山学院大学ラグビー部の愛称)を生で応援してください。

霜垣 応援団も駆けつけますよ(笑)。みなさんに伝えたいのは、スポーツの応援はライブが最高であるということです。秩父宮、神宮、箱根など、ぜひ多くの青学関係者に現地に足を運んでもらい、私たちと一緒に応援に参加してほしいと思います。そのためにも応援団は、もっと団員を増やして活動の幅を広げることから始めないと…。女性団員も大歓迎ですので、この紙面を見て、応援団に興味を持ってくれる人がもっと増えたらうれしいです。私はあと一年、応援団での活動が残っているので、その間に後輩たちに安心して引き継げる基礎を築きた

いです。

加藤 新聞編集委員会や第一部卒業アルバム委員会に限らず、一人でも多くの青学生にクラブ・サークルに所属してほしいです。また、何かを一つやりとげること努力してほしいです。課外活動では、同じ学部以外の仲間を見つけてことができますし、「青学に通っている」ことの意義を実感できると思います。楽しいことばかりではなく、責任という言葉の重みも感じますが、どんなことも自分自身を大きく成長させてくれる貴重な経験になるはず。――最後に「青山学院大学に入学してよかった」と思うことを教えてください。

——最後に「青山学院大学に入学してよかった」と思うことを教えてください。

加藤 学生生活を通して、自分を成長させることができました。700枚以上の名刺を配るほど多くの方々と出会えたことも大きいです。それに新聞作りでは、陸上競技部やラグビー部はもちろん、他の体育系、さらに文化系団体からも多くの感動をいただきました。取材という形で、そんないくつもの感動の瞬間に立ち会えて幸せでした。

霜垣 私の場合は、先ほどの話と重なりますが、すてきな先生方との出会いがあったことです。先生方のおかげで楽しく学べ、また応援団を知ることもできました。学業と応援団を両立しながら充実した日々を過ごせています。

浦井 青学でラグビーをできて本当によかったです。主務の経験も含めて、ラグビー部でなければ、4年間の間、何かに対して努力し続けることは無理でした。Aグループからの降格から始まり、昇格で終わったことにも何か縁を感じます。最後まであきらめずにやり遂げることの大切さを卒業後も忘れずにいたい。――

君島 何と言っても陸上競技部で箱根駅伝に出場できたことです。青学に進学していなければ、いまの自分はありませんでした。今後はこの経験を自信に、社会人として大成できるよう精一杯取り組んでいきます。

学生生活をより充実させるために

好きなことを仲間とともにトコトン追求

クラブ・サークル

クラブ・サークルに入るには

新入生勧誘行事(相模原キャンパス)

2011年4月5日(火)・6日(水) 10:00~16:00

そのほか、各クラブ・サークルごとに新入生歓迎のイベントを開いています。

本学のクラブ・サークル活動は、スポーツに打ち込む体育連合会、文化活動に勤しむ文化連合会に加え、応援団、吹奏楽パトントワリング部、白馬ヒュッテ運営委員会、新聞編集委員会、英字新聞編集委員会が所属する学友

会直属団体、青山祭と相模原祭それぞれの実行委員会、そして1年ごとに認定を受け、幅広いジャンルの活動を楽しむ公認愛好団体の5つの組織で運営されています。学部や学年を超えた仲間と好きなことをトコ

トンまで追求すれば、多くの感動を共有できるはずです。ぜひ積極的に仲間との交流を深めてください。なお、『AGU News』の巻末では、毎号クラブ&サークルの紹介記事を掲載しています。

Club & Circle Information

*学生団体の活動予定は、今後変更になる可能性があります。

主要活動報告(2011年1月)

アイススケート部(フィギュア部門) 第83回全日本学生氷上競技選手権大会(男子Cクラス3位)(女子Cクラス2位)
陸上競技部(長距離ブロック) 第87回東京箱根間往復大学駅伝競走(総合9位)

主要活動予定(2011年4月~5月)

合気道部 第49回全日本合気道演武大会(5月)
アイススケート部(フィギュア部門) 第39回関東学生フリースケーティング選手権大会(5月)
居合道部 第49回東京都居合道大会(4月)
空手道部 第39回関東学生空手道選手権大会(5月)
剣道部 第57回関東学生剣道選手権大会(5月)
拳法部 日本拳法第24回東日本大学リーグ戦(5月)
硬式庭球部 平成23年度関東学生テニストーナメント大会予選(4月)
硬式野球部 平成23年度東都大学野球春季リーグ戦(4月)
サッカー部 第85回関東大学サッカーリーグ戦(4月)
自動車部 平成23年度全関東学生ジムカーナ選手権大会(5月)
射撃部 平成23年度関東学生ライフル射撃選手権春季大会(5月)
準硬式野球部 第53回関東地区大学準硬式野球選手権大会(4月)

お問い合わせ先 学生部学生課 TEL.03-3409-7835

少林寺拳法部 第48回少林寺拳法関東学生大会(5月)
水泳部 東京都春季水泳競技大会(4月)
ソフトテニス部 平成23年度東都大学春季リーグ戦(5月)
卓球部 平成23年度関東学生春季卓球リーグ戦(5月)
テアリーディング部 第5回アジアインターナショナルオープンチャンピオンシップ(5月)
バスケットボール部(男子) 第27回京王電鉄杯10大学バスケットボールフェスティバル(4月)
第60回関東大学バスケットボール選手権記念大会(5月)
第51回関東大学バスケットボール新人戦(5月)
バドミントン部 平成23年度関東大学バドミントン春季リーグ戦(4月)
バレーボール部 2011年度春季関東大学バレーボールリーグ戦(4月)
ハンドボール部 2011年関東学生ハンドボール連盟春季リーグ戦(4月)
陸上競技部(短距離ブロック) 日本グランプリシリーズ織田記念国際陸上(4月)
レスリング部 2011年東日本学生リーグ戦(5月)
アナウンス研究会 ALL青山発表会(4月)
囲碁同好会 関東学生囲碁リーグ春季団体戦(5月)
オーケストラ部 第98回定期演奏会(5月)
競技ダンス部 第102回東都大学学生競技ダンス選手権大会(4月)
グリーンハーモニー合唱団 東京六大学混声合唱連盟第53回定期演奏会(5月)
ロイヤルサウンズジャズオーケストラ 東京大学五月祭出演(5月)

青学の魅力を伝える名ガイド

キャンパスツアー ボランティアグループ

M E S S A G E

文学部史学科3年 小川 満里奈

大学生生活の「生の声」を高校生に伝え、より一層魅力のあるキャンパスをアピールすることに日々力を入れています。大勢の前で話をするのはとても緊張しますが、現在所属しているメンバー

も「気がついたら、話し上手になっていた」「最初は軽い気持ちで入ったけど、活動していくうちに夢中になった」と感じているようです。自分が通う学校なのだから、奥深いところまで知っていると、学生生活を送っていく上できつと得することもあります(笑)。

一緒に青学のPRをしませんか? 青学好きの個性豊かなメンバーたちがあなたをお待ちしています。



青山・相模原両キャンパスで実施

本学を訪れた高校生を主な対象に、在学生がキャンパス内を案内する「キャンパスツアー」。単なる施設紹介だけでなく、大学の歴史や伝統、日常の学生生活を紹介するなど、在学生から直接「生」の情報を聞ける機会として高校生に人気です。

キャンパスツアーは、基本的に学生たちのボランティアで運営されているため、学生の自主性に任されているのが特色です。青山キャン

パスと相模原キャンパスそれぞれに設置されている「キャンパスツアーボランティアグループ」に登録し、高校生が見学に来る時間帯と自分の授業の空き時間がマッチしたときに、自由に参加できるシステムになっています。ツアーの質向上のため、週に一度は定例ミーティングを行い、ガイド内容の確認や更新、情報共有の場としています。

キャンパスツアーの実施期間は、主に4月から12月。高校からの個別依頼に対応する「通常ツアー」と、オープンキャンパスや学園祭など「大規模イベントでのツアー」が活動の中心です。高校時代に案内されたツアー内容が印象的で青学に入学し、今度はガイドの立場でキャンパスを案内しているメンバーもいます。大学と高校生との絆をつなぐ、大きなやりがいを感じられる課外活動です。

キャンパスツアーガイドになるには
新入生勧誘行事(相模原キャンパス)

2011年4月5日(火)・6日(水) 10:00~16:00

そのほか、説明会・体験ツアーのお知らせを学生ポータルに配信していきます。

受付場所

相模原キャンパス 企画・渉外グループ:B棟2階
青山キャンパス 広報入試センター:14号館1階

クラブ・サークルをはじめとして、
 本学では多くの学生がさまざまな課外活動に取り組んでいます。
 今回はその中から一部の活動をご紹介します。

学内で本格的な異文化交流を体感できる場所

青山学院チャットルーム

「外国語を話したい」「留学生と接点がほしい」という日本の学生のニーズと、「日本の学生と交流したい」「学内の安心できる環境で国際交流や外国語教育に携わりたい」という留学生のニーズに応える形で開設されたのが青山学院チャットルームです。本学で学ぶ留学生が「チャットリーダー」を務め、日本の学生と留学生が、日替わりのトピックをテーマに外国語でチャット(おしゃべり)します。外国語によるコミュニケーションを通じて、語学習得はもちろん、異

文化理解と国際交流の活性化を目的に活動していますが、開室から2年経ち、対応する言語も英語に加え、中国語、韓国語、そして留学生を対象とする日本語のセッションまで行われるようになりました。

セッションは初級、中級、上級の3つのレベルに分かれ、チャットリーダーは参加者のレベルに応じて対話をリードしてくれるので、気軽に国際交流を楽しめます。また幼稚園から大学・大学院まで学院全体を対象とした施設のため、国際コミュニケーションとともに、年齢や所属学校の垣根を越えた交流も可能です。積極的に参加することで、語学力向上と異文化理解、そして新しい仲間との出会いを体験できます。

M E S S A G E

文学部日本文学科3年 高木 愛子

私は今年度日本語チャットリーダーとして活動していました。留学生と一緒に日本語で話をするのが、日本語チャットリーダーの役目です。参加留学生は、アジア、アメリカ、ヨーロッパなど世界各地から来ており、私にとってのチャットルームは異文化との出会いの場でした。「日本の常識が全てではない。世界は広いのだ」ということをチャットルームで学びました。英語のチャットルームにもよく参加しますが、レベルに合わせて話をしてくれるので英語に自信のない私でも気軽に利用できます。みなさんも、ぜひ一度チャットルームに来てみてください。きっとすてきな出会いが待っているはずです。



季節ごとに特別イベントを開催

チャットルームを利用するには

利用料金：無料 開室期間：4月～7月、10月～12月、1月

時間帯：月曜日～金曜日 9:00～17:00 1セッション：40分(1日最大5セッション)

予約方法：学生ポータルにて、2週間前より受け付けます。

場所：青山キャンパス 間島記念館1階 ※相模原キャンパスでは週に2回、通信セッションを開催

教員と学生が学部・学科・学年の枠を越えて活動

アドバイザー・グループ

アドバイザー・グループ(通称「アド・グル」)は、学部や学科にとらわれることなく、学生が各自の興味や関心に応じてアドバイザー(教員)を選び、それぞれのグループで独自の活動を行うユニークな課外活動です。演習(ゼミ)と同じような仕組みですが、活動内容は教員の専門分野の研究に関するものとは限りません。旅行や音楽、スポーツを楽しむグループもあれば勉強

会や英会話、ボランティアに取り組むグループもあるなど多種多様な活動を行っています。

あくまでアド・グルは任意加入の活動ですが、参加することで「仲間、友人との横のつながり」「先輩、後輩との縦のつながり」「教員とのつながり」「OBや外部の人とのつながり」が一気に広がり、より豊かな学生生活を演出してくれます。また、さまざまな活動を通じて、自主的に企画や運営を行ったり、人生や社会問題について意見を交換したりなど、人間的にも大きく成長できる機会が得られるはずです。

アド・グルとクラブ・サークルの両方に加入している学生も多くなります。豊かな個性を育み、学生生活をより有意義なものとするための活動としてアド・グルへの積極的な参加をオススメします。

M E S S A G E

文学部第二部英米文学科4年 池田 剛久

吉仲淳アド・グル所属

サークルやゼミとは「ちよっとだけ」違って「かなりいい」、これぞアド・グル。アド・グルでは、時と場合によって先生も学生もアドバイザーとなる場合があります。ここがアド・グルの特色ともなっている「学びの共同体」だと思っています。ゼミにはもちろん先生がいるので、どうしても授業という制度の内側になってしまう。一方、アド・グルには単位や成績はありませんから、そこから自由になることができ、のびのびと手足を広げることができることを勧められます。

大学では決して躊躇することなく、「手足を広げ、知ろうとする」ことを実践してみてください。好奇心とアド・グルはきっとあなたを歓迎してくれるはず。青学はあなたによき学び舎への素敵な門を用意してくれていますから。



吉仲アド・グル ロゴマーク



音を楽しむ吉仲アド・グル(教育学科吉仲ゼミとの合同活動)

アドバイザー・グループに参加するには

受付期間：2011年4月8日(金)～20日(水)

受付場所：相模原キャンパス 学生生活グループ：B棟1階学生センター
 青山キャンパス 学生部学生課：1号館1階

青山学院大学の進路・就職支援について

本年度の新卒内定率低下に関しては連日多くの報道がなされ、厳しい環境下で努力を続けている4年生や、これから就職活動を迎える3年生、保証人の方々に、大きな不安が広がっています。確かに2011年3月卒業予定の4年生の就職活動は例年に比べ厳しい状況にあり、進路の届け出を終えている学生の数は前年と比較して少ない状況です。

4年生に対しては、進路・就職センターおよび進路グループの最重要課題として、昨年5月の連休明けから重点的に支援をしてきました。5月にはガイダンスと学内合同企業セミナーを2回、7月と8月には面接対策講座と企業説明会を開催し、夏休み明けの10月から12月まで毎月面接対策講座と合同企業セミナーを実施しました。年末には、進路の届け出に就職活動中と記載している学生に電話をかけ、現状の聞き取りと共に、個別相談の勧めや進路就職支援システム「Web Ash」の活用について案内しました。年明けには、進路の届け出をしていない学生に対し、提出を促すと同時に、学外で開催されるセミナーの案内も送付し、さらに毎週火曜日にはキャリアカウンセラーによる個別相談も受け付けています。

なお、卒業後も就職活動を継続する学生に対しては、希望に応じて在学時同様

の個別相談や資料室利用を可能にするなど、バックアップ体制を整えています。

以下に、本学の学生に対する進路・就職支援体制をご紹介します。周りの協力を最大限に利用し、納得のできる進路に向けて進んでほしいと願っています。

1. 個別相談

学生一人ひとりの「納得できる進路選択」を目指し、全スタッフで個別相談に取り組んでいます。相談内容は進路就職支援システムに入力し、次回の相談時に誰でも対応できるよう配慮しています。また、就職部長も、週1回、予約制で相談時間を設けています。

2. 進路・就職支援行事の開催

1・2年次から進路への意識を高めるため、OB・OGによる講演やキャリアデザイン講座、インターンシップの説明会などを実施しています。また多様な進路に対応すべく、公務員・教員を目指す学生への行事にも力を入れています。さらに、Uターン、外資系、マスコミ、航空業界の希望者や外国人留学生を対象としたセミナーのほか、年間約400社もの優良企業採用担当者による採用説明会を学内で実施しています。

本学独自の進路就職支援システム「Web Ash」を活用してください

説明会等の案内を閲覧できるだけでなく、業種や職種、都道府県別に求人票を検索することができます。内定者の残した企業別の入社試験報告、公務員試験合格者報告も貴重な資料です。その他にもインターンシップ情報の提供、企業ごとの内定者アドバイザーリストの閲覧や学内行事欠席者のための動画配信等、多くの機能を備えています。学内の情報端末、パソコン室のみならず、学外からも終日閲覧が可能です。



主な進路・就職先 (2010年3月卒業生)

人文・社会科学系学部	
企業名	計(男・女)
全日本空輸	23名(1・22)
みずほ銀行	23名(7・16)
東京海上日動火災保険	18名(1・17)
明治安田生命保険	18名(3・15)
日本生命保険	18名(6・12)
三菱東京UFJ銀行	18名(3・15)
第一生命保険	16名(2・14)
りそな銀行	15名(6・9)
楽天	15名(12・3)
郵便局	14名(2・12)
野村證券	14名(6・8)
日興コーディアル証券	12名(6・6)
日本興亜損害保険	12名(3・9)
東日本旅客鉄道	12名(9・3)
エイチ・アイ・エス	10名(0・10)
ジェーシービー	10名(1・9)
三井住友海上火災保険	10名(3・7)
三井住友銀行	10名(5・5)
中央三井信託銀行	9名(4・5)
ANAエアサービス東京	9名(0・9)

理工学部・理工学研究科	
企業名	計(男・女)
日立製作所	10名(7・3)
エヌ・ティ・ティ・データ	8名(7・1)
エヌ・ティ・ティ・コムウェア	7名(6・1)
東日本旅客鉄道	7名(5・2)
キャノン	6名(6・0)
野村総合研究所	5名(5・0)
ヤフー	5名(5・0)
リコー	4名(3・1)
富士ゼロックス	3名(3・0)
IHI	3名(3・0)
ブリヂストン	3名(3・0)
東芝	3名(2・1)
日立情報システムズ	3名(3・0)
パナソニック	3名(3・0)
みずほ情報総研	3名(3・0)
メタウォーター	3名(3・0)
東海旅客鉄道	3名(2・1)
東京電力	3名(2・1)
日本ユニシス	3名(3・0)
本田技研工業	3名(2・1)

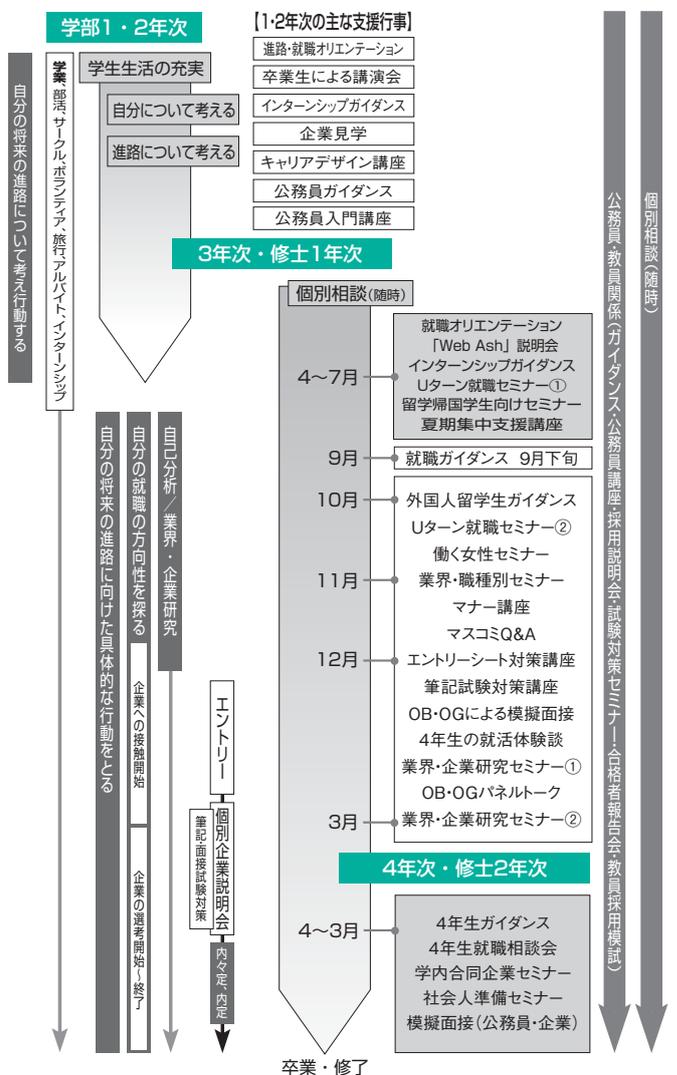
教員の主な採用先

公立学校教員	小学校	39名(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、静岡県、愛知県)
	中学校	12名(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、愛知県、山口県)
	高等学校	4名(神奈川県、愛知県)
私立学校教員	幼稚園	22名 / 小学校
		7名 / 中学校
		3名 / 高等学校
		10名

公務員の主な採用先

国家公務員31名	経済産業省、厚生労働省、文部科学省、内閣法制局、衆議院事務局、東京国税局(国税専門官)、陸上自衛隊(幹部候補生) ほか
地方公務員98名	都道府県……東京都、神奈川県、茨城県、石川県、福島県、長野県 ほか 東京特別区……荒川区、板橋区、大田区、江東区、品川区、新宿区 ほか 市町村……横浜市、川崎市、相模原市、町田市、調布市、八王子市 ほか 警察官・消防官……警視庁、神奈川県警察本部、横浜市安全管理局 ほか

進路・就職支援のプロセス (2011年度 計画)



進路の報告

卒業・修了が決まりましたみなさんへ 進路報告書の提出先

青山キャンパス(人文・社会科学系学部)

「Web Ash」で入力、もしくは進路・就職センターへ「進路届」を提出

相模原キャンパス(理工学部、理工学研究科、社会情報学研究所社会情報学コース)

「Web Ash」で入力、もしくは学生支援ユニット進路グループへ「進路届」を提出

※人文・社会科学系の大学院生については、学位記を受け取る際に、進路に関する調査用紙を提出していただきます。

3. 就職活動情報・求人情報・卒業生情報提供

資料室では、求人票や企業からのパンフレット類の他、日本経済新聞・各業界新聞や雑誌類、就職四季報や会社情報、公務員・教員希望者向け資料等を閲覧できます。また求人票は対象別に、大学院、留学生、都道府県別、既卒者向けにもファイルを設けています。

4. 進路状況・支援体制満足度調査

進路把握率は、数年来ほぼ100%を保ち、学部別の進路・就職状況、内定先一覧など詳細な統計資料を提供しています。学生の進路満足度、支援体制への満足度調査により、常に支援体制の改善・見直しを図っています。

5. 企業との情報交換

青山・相模原の両キャンパスを合わせ、年間約1,500社の採用担当者に来訪いただき、企業内容や採用実績、採用計画など情報収集に努めています。こうした関係づくりが、追加や臨時の求人情報を得る機会ともなっています。また企業との関係を強化するため、毎年、採用担当者を招いて情報交換会を実施しています。

6. OB・OGからの協力

OB・OGの方々には、校友会組織を中心に、在学生への多大な支援をいただいています。マスコミ青山会主催の「マスコミQ&A」、青山社労士会から講師を派遣していただいた「社会人準備講座」、校友会大学部会および青山会ネットワークのご協力を得て行う「卒業生による業界研究」「模擬面接会」などがあります。学生のニーズと効果を検討したうえで、今後さらに有意義に連携をしていきたいと考えています。

7. 文部科学省補助金を活用した取り組み

2009年度に文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」に採択された取り組み「人材ニーズと学生意識との格差解消による適職発見支援」が3年目を迎えます。この取り組みの中心となるのは、企業側の人材ニーズに適合した自己アピールを、学生がエントリー・シート上に表現できるシステム、「Myカルテ」の運用です。これにより、従来のスタッフによる個別相談に加え、いつでも必要ときに外部の専門機関によるアドバイスを受けることができるようになりました。最近の採用試験で大きなポイントとなる面接も、実はその質問の多くはエントリー・シートの内容に基づいてなされます。つまり、自分自身を理解し、方向性を定めたいと、しっかりア

ピールできるエントリー・シートの作成は、そのまま面接対策にもつながり、就職活動を有利に進めることにもなります。学生たちの“適職発見”をサポートするこのシステムを積極的に活用するよう、多くの学生に勧められています。

8. 相模原キャンパス独自の就職支援

昨年7月、社会情報学部を対象に企業との情報交換会を開催しました。2012年3月に社会情報学部の第一期生が卒業するため、その学生たちの就職活動に先立ち、学部の紹介ならびに学習成果の発表を目的に実施し、会場には企業の採用担当者54名、社会情報学部3年生約100名が出席しました。学部長によるカリキュラム・授業風景等の説明や、学生による英語でのプレゼンテーションなど、学部全体の紹介を中心に、学生の主体的な参加による演習授業の成果発表や採用担当者との懇談会を行いました。

また本年1月中旬、青山学院大学・明治大学・日本女子大学・横浜国立大学の4大学合同で模擬グループディスカッション・グループ面接を開催しました。かねてより理工同窓連絡会の協力のもと、模擬グループ面接・個人面接を実施していましたが、初対面の学生とともに意見交換や面接を行うことが最も難しいとの意見が寄せられたため、今回他大学の学生を交えて実施しました。午前中にグループディスカッション、午後にグループ面接を行い、学生は面接官から講評を得るだけでなく、学生同士でも互いに評価し合いました。今後も本学だけにとどまらず、他大学との連携を深め、就職支援を強化していきます。



4大学合同模擬グループ面接

このように青山学院大学では、常に学生に有益なさまざまな挑戦を試み、社会に役立つ人材を送り出すための支援を続けています。

企業・団体、他大学、各就職情報会社、卒業生などとの交流により、社会における本学の位置を確認しながら、さらなる質の向上を目指しています。
(進路・就職センター／進路グループ)

2011年度より、青山スタンダードに「キャリアの技能」領域を新設

全学部の学生が共通して学ぶ教養教育「青山スタンダード」に、2011年度より新たに「キャリアの技能」領域が新設されます。これまで「青山スタンダード」の中で提供してきたキャリア開発・キャリアガイダンスに関わる科目を集約するとともに新しい科目群を開発し、体系化することによって、学生の就業力の向上と社会的自立をいっそう図っていきます。

「キャリアの技能」領域における最終的な目標は、学生一人ひとりが自分の学

びの成果を生かし、希望する仕事につけるようにすることです。そのために、自分を見つめなおし、自分の得意な能力、不得手な能力を理解することで、自分の将来の青写真を描くことができる場を提供していきます。

※「キャリアの技能」領域は2011年度以降入学生を対象としています。2010年度以前の入学生には同科目を「社会理解関連科目」や課外講座として開講します。

青山スタンダードの構成

科目の種類				
青山スタンダード科目	コア科目	フレッシュャーズ・セミナー、ウェルカム・レクチャー、キャリアデザイン・セミナー※		
		教養コア	キリスト教理解関連科目(領域A)	(領域A)
	人間理解関連科目(領域B)		(領域B)	
	社会理解関連科目(領域C)		(領域C)	
	自然理解関連科目(領域D)		(領域D)	
	歴史理解関連科目(領域E)		(領域E)	
	技能コア		言葉の技能(領域F)	(領域F)
			身体の技能(領域G)	(領域G)
			情報の技能(領域H)	(領域H)
		キャリアの技能(領域I)	(領域I)	

学年	達成目標	科目
1年次	職業観・勤労観の養成	キャリアデザイン・セミナー※
2年次	自己分析と実践能力の開発	感性ビジネスA・B
		国際ビジネス入門A・B
		企業のモノづくりと人づくりのリテラシー
		キャリアデザイン基礎※
3年次	職業選択力と仕事力の養成	日本語文章作成演習※
		感性ビジネスC・D
		国際ビジネスと海外事情A・B
		現代金融の諸問題
		パーソナル・マネー・マネジメント入門
ファイナンシャルプランニング入門		
キャリアデザイン応用※		
仕事力基礎論※		

※のついた科目は2011年度以降に新設予定です。

新設科目ピックアップ

●キャリアデザイン・セミナー(1年次 後期)

どのような仕事(職業)につけば良いのだろう、ということを考えていこうとするセミナー(演習)です。自分の将来が見えてくれば、取得すべき科目も見えてきます。

●キャリアデザイン基礎(2年次 前期)

物事を論理的に考える力、自分の考えを的確に伝える力等、社会に必要な基本力を身につけることが目的です。専門の授業を受けるのにも役立ちます。

●仕事力基礎論(3年次 前期)

企業に勤めたいと考え、経営学や法律を専門に学習している学生以外を対象に、企業人として最低限必要な会計や法律の知識を身につけます。

経済学部校友(卒業生)の石樽利光氏が スロベニア大使に就任



スロベニア大使 石樽利光氏

石樽利光(いしくれ・としみつ)氏が、今年1月、スロベニア大使に就任しました。石樽氏は本学経済学部在学中の1969(昭和44)年に外務省の試験に合格し、1970(昭和45)年に外務省に入り、1971(昭和46)年に本学を卒業されています。石樽氏は国連開発計画(UNDP)東京事務所長、大臣官房福利厚生室長、アジア大洋州局南西アジア課調整官を歴任された後、2006(平成18)年からサウジアラビアのジェッダ総領事を務められ

ました。石樽氏は、首脳同士の会談や外交交渉の場で通訳を務められたほどチェコ語に堪能であるだけでなく、東ヨーロッパ情勢に通じた外交官としても知られています。

石樽氏は岐阜県の出身で、高校生のとき外交官になることを決めて本学に入学。本学では法学部の学生団体「青鳳会」のメンバーでした。この青鳳会からは、後述の安井兵典氏や加藤重信氏ら外交官となった方々や、森本雄司、飯塚勝、小久保勝各氏ら判事や検事になった方々

が続々と出ています。

本学出身の外交官で大使になったのは、パナマ大使を務めた松津光威氏、シドニー総領事のあとヨルダン大使を務めた加藤重信氏、そして現在ボスニア・ヘルツェゴビナ大使を務めている豊二夫(もたい・ふたお)氏があり、石樽氏で4人目です。豊氏が法学部、他の3人はすべて経済学部の出身です。しかも4人とも本学在学中に外務省の試験に合格し、その翌年に入省しています。

ちなみに総領事となった本学出身の外交官には、すでに退官されたアンカレッジ総領事だった青木昭博氏(法学部)やムンバイ及びオーストラリアのパース総領事を務めた安井兵典氏(法学部)ら数人がおり、現役では元マルセイユ総領事の小林正雄氏(文学部)、バンクーバー総領事を務めた大塚聖一氏(文学部第二部)らがいます。彼らの他の外交官の中にも国際政治経済学部第一期生の本清耕造氏ら多くの本学出身者がすでに外務省の要職にあり、今後の活躍が期待されます。

スロベニアに赴任直前の1月31日(月)、石樽大使は本学でのゼミの指導教授だった原豊本学名誉教授とともに伊藤定良学長と半田正夫理事長を訪問され、大使としての抱負を語ってくださいました。石樽大使のますますのご活躍とご成功をお祈りしたいと思います。

(副学長 土山 實男)

青木 保教授が中国の北京外国語大学から 名誉教授の称号を授与される

2010年10月16日(土)に中国の北京外国語大学で開催された北京日本学術センター設立25周年記念式典において、記念講演者として出席した総合文化政策学研究所の青木保特任教授が同大学長より名誉教授の称号を授与されました。北京外国語大学は30以上もの専攻言語を有する中国で最大の語学系大学です。同大学の日本学術センターは1985年に独立行政法人国際交流基金の支援により設置され、中国における日本研究・日本語教育の拠点となっています。

青木教授が文化人類学において顕著な業績をあげたことに対する授与で、2000年の中国社会科学院による名誉教授授与に続き、2度目の名誉称号の授与となりました。青木教授は、40年以上にわたってタイやスリランカなどアジアを中心に世界各国でフィールドワークを実施し、1970年代にはタイの仏教寺院で僧として修行した経験をもとにして書いた『タイの僧院にて』(中公文庫)が注目されるなど、アジアの文化研究、また社会中間層の出現を一早く指摘するなど精力的な研究活動を続けています。このような研究と活動が高く評価され、これまでに「吉野作造賞」など多くの学術賞を受賞したほか、2000年には紫綬褒章を受章しています。また2008年には著書『異文化理解』『多文化世界』(いずれも岩波新書)、『「日本文化論」の変容』(中公文庫)が三冊同時に中国語に翻訳出版されるなど、中国においてもその業績が評価されています。

近年は欧米を含む各国の文化政策、文化外交などについての研究・実地調査を行っており、2007年4月から2009年7月まで、民間人出身としては4人目となる文化庁長官を務めました。在任中は、国際文化交流を始め、文化芸術を活用した産業振興・地域活性化に取り組む自治体を表彰する「文化芸術都市表彰制度」の創設やアニメ・マンガを含むメディア芸術の振興などに貢献しました。その後、本学の大学院総合文化政策学研究所に着任し、大学院では文化政策についての講義を、学部では文化人類学の講義を担当しています。



総合文化政策学研究所 青木保特任教授

今回の授与を受けて青木教授は、「人文・社会科学の研究者が中国で称号を授与されるのは非常に珍しく、名誉に感じています。近い将来、本学にアジアの研究・教育の交流拠点を作るために力を尽くしていきたいと思っています」と述べています。

有志の学生によるネパール・クリーンアップ・プロジェクトを開催

2010年12月23日から本年1月3日にかけて、本学の学生19名がネパール連邦民主共和国の首都カトマンズ市とその近隣に位置するバナパ市で、現地の大学生延べ数百名とともに街中のクリーンアップ・プロジェクトを実施しました。このプロジェクトは2010年に大学院に設置されたGLEP (グローバル・エキスパート・プログラム)の理念に共感し、国際協力に興味を持つ学部生によって設立された有志団体GLEP Youthの活動として行われたもので、代表の学生が夏期休暇中に現地視察および現地大学生と事前協議を行うなど、入念な準備のもとに実現しました。

ネパールでは2011年を「ネパール観光年」と位置づけていますが、町のあちこちにゴミがそのまま何日も放置されている光景が目につきます。ゴミを拾いながら、市民に燃えるゴミと燃えないゴミの分別をすることの重要性を説明し、同時にこの活動を見た市民に対するアンケート調査を行いました。その結果、90%以上の人々が、このような取り組みは良いことであるとの考えを示し、カトマンズ市を近い将来きれいにすることが可能で



カトマンズにて

あるという手ごたえを感じることができました。またクリーンアップ・プロジェクトの後に行われたユースサミットでは、本学の学生とネパールの大学生たちが、いかにカトマンズをきれいにすることができるかという



作業の様子

テーマについて英語でディスカッションを行い、その具体的な案を政府担当者に提出することもできました。さらに本学の学生たちが日本の戦後の60年間の発展とその問題点、日本のゴミ問題などについてプレゼンテーションを行い、日本の発展の影には公害などで多くの犠牲者が出たことなどを説明し、ネパールの今後の開発にぜひ参考にしてもらいたいと激励しました。

世界的にも有名なヒマラヤ山脈、その美しさは、世界の誇りであります。そのヒマラヤと歴史を共にしてきたネパールの首都を若い力によって環境保全していく取り組みは、国際協力の第一歩として、青年たちにさまざまな体験と気づきを与えてくれました。今回の本学の学生の取り組みにより、しっかりと現地の大学生に動機づけすることができました。大学で学んだ理論を、現場の実際的な働きを通して、体験することの重要性を体得してもらいたいと願っています。今後もネパールの大学生と連携し、3年から5年をかけて、カトマンズ市をはじめネパールの環境整備事業に取り組みたいと考えています。

(国際政治経済学研究科プロジェクト教授 塚本 俊也)

戦略経営・知的財産権プログラム開設記念講演会を開催

2011年2月14日(月) 17時から、アイビーホール青学会館において、経営学研究科戦略経営・知的財産権プログラムの開設記念講演会を開催しました。このプログラムはWCO (世界税関機構)による奨学金制度 (WCO-Japan Human Resources Development Program)のもとで、開発途上国の税関職員を対象に戦略経営や知的財産権について教育を行う1年間の修士課程コースで、講義や研究指導はすべて英語で行われます。この4月に開設される本プログラムには、第一期生としてアフリカ、アジア、中東などの各国から選考された、9名の留学生が入学する予定になっています。このように特徴のあるプログラムであるため学内外の多くの方々に注目いただき、当日は100名を超える参加者がありました。

伊藤定良学長の開会挨拶、田中正郎研究科長の主催者挨拶、プログラムについての紹介と報告の後、青山学院大学特別招聘教授の榊原英資氏による「アジアと日本」と題する記念講演が行われました。アジアの歴史を起点にその文化、社会、経済について概観しながら、その中で日本がこれから進むべき方向や、またそのために求められる教育のあり方など、本プログラムを進めるうえでも参考になる、数多くの含蓄あるお話を伺うことができました。

引き続き、会場を移してレセプションが行われました。山北直久院長の挨拶、元政策研究大学院大学客員教授の朝倉弘教氏の来賓ご挨拶

のあと、半田正夫理事長の乾杯の発声で始まったレセプションでは、参加者の間で和やかに歓談が行われました。途中、早稲田大学商学部の椿弘次教授からは、貿易実務研究の専門家立場から本プログラムへの期待が述べられ、また本学国際政治経済学研究科の



講演会の様子

仙波憲一研究科長からは、国際社会への取り組みとして両研究科で連携・交流を推進していきたいとお話がありました。またWCO本部(ブリュッセル)の御厨邦雄事務総局長からもメッセージをいただき、開発途上国税関のキャンパシビリティの重要性と、その中で果たす本プログラムの役割と意義についてのお言葉が紹介されました。

当日は夕方から雨が雪に変わり、レセプションが終了した時には帰路に雪が積もるあいにくの天気でしたが、多くの関係者の方に本プログラムの状況について知っていただく機会になったと思います。当日ご参加いただいた方々をはじめ、本プログラム開設にあたりご支援いただいた多くの関係者の皆さまに、改めて御礼申し上げます。

(経営学研究科教授 安田 洋史)

卒業生へのメッセージ



卒業生の皆さんへ
校友会会長 原進

今春、本学を卒業される学部生、院生の皆さんに心からお祝い申し上げます。青山学院の卒業生は学んだ教育、理念のもと、国内のみならず、世界各地であらゆる分野において活躍されており、青山学院が高く評価されていることに貢献しております。これから卒業される皆さんにも大いに期待するところです。

さて、皆さんは卒業と同時に「青山学院校友会」の正会員として迎えられることになっており、心より歓迎申し上げます。百有余年の歴史を持つ校友会は、校友相互の親睦と母校との絆をつなぐため、また母校の発展に寄与するため組織されております。建学の精神を正しく継承している校友会活動を通じての諸先輩との交流は、皆さんの人生をきっと豊かで有意義なものにしてくれることと思います。そして毎年9月に青山キャンパスで開催されます同窓祭に参加いただけますと何年、何十年経ってもきっと青春の思い出がよみがえってくることだろうと思います。

校友会組織は皆さんが在籍した各学部、学科ごとの同窓会、体育会系、文化会系、ゼミ等のOB、OG会、その他あらゆる団体の参加するアイビーグループ、そして国内56カ所、海外18カ所に地域の支部があり、卒業後どこに行かれても校友会組織に加入することが可能です。複数加入も歓迎ですので是非ご参加されることをお勧めいたします。最後になりましたが、皆さんのご活躍と幸多き人生でありますようにお祈り申し上げます。

青山学院校友会センター 校友センター窓口案内

「青山学院校友会センター」は卒業生の現住所等基本情報を管理し、また、卒業生全員が会員となる「青山学院校友会」の本部事務も担当しています。

校友向け情報紙「あなたと青山学院」の発行・発送など、さまざまな活動を通し卒業生と母校青山学院とを結ぶ窓口となっています。

これらの活動は、卒業生の基本情報をもとに行っており、当センターで取得した個人情報、「学校法人青山学院個人情報保護基本方針」に則り、厳重に管理しています。

*氏名、現住所、勤務先などに変更が生じた場合は、必ず青山学院校友会センターにお知らせください。

「あなたと青山学院」について

本紙は青山学院と青山学院校友会が共同制作し、全卒業生にお送りするもので学院および校友会からさまざまな情報を発信いたします。



青山学院校友会ウェブサイト <http://www.alumni-aogaku.jp/>

保存版 卒業後の連絡先一覧

	担当事務局	お問い合わせ先	備考
卒業・修了証明書、成績証明書の交付	学務部教務課	03-3409-7830	人文・社会科学系学部対象 (第二部(夜間部)を含む)
	学生支援ユニット学務グループ(※)	042-759-6003	理工学部・理工学研究科・社会情報学部・社会情報学研究科(社会情報学コース)対象
	大学院事務局	03-3409-7831	人文・社会科学系研究科・社会情報学研究科(ヒューマンイノベーションコース)対象
	専門職大学院事務局	03-3409-8025	国際マネジメント研究科・法務研究科・会計プロフェッション研究科対象
学力に関する証明書の交付 (旧.基礎資格および単位修得証明書)	学務部教職課程課	03-3409-9634	
	学生支援ユニット学務グループ(※) (教職課程担当)	042-759-6032	免許状授与証明書は、免許状の交付を受けた都道府県の教育委員会へお問い合わせください。
	学務部教務課	03-3409-8047	人文・社会科学系学部対象 (第二部(夜間部)を含む)
	学生支援ユニット学務グループ(※)	042-759-6003	理工学部・理工学研究科・社会情報学研究科(社会情報学コース)対象
科目等履修生制度の案内	学務部教職課程課	03-3409-9634	
	学生支援ユニット学務グループ(※) (教職課程担当)	042-759-6032	教職課程対象
	大学院事務局	03-3409-7831	人文・社会科学系研究科・社会情報学研究科(ヒューマンイノベーションコース)対象
	専門職大学院事務局	03-3409-8025	国際マネジメント研究科・会計プロフェッション研究科対象
図書館の利用	図書部運用課	03-3409-7858	卒業生の図書資料の貸出には、利用カードの申請が必要です。 http://www.agulin.aoyama.ac.jp/
	教育・学習支援ユニット図書グループ(※)	042-759-6027	
大学院案内	大学院事務局	03-3409-7831	人文・社会科学系研究科・社会情報学研究科(ヒューマンイノベーションコース)対象
	学生支援ユニット学務グループ(※)	①042-759-6033 ②042-759-6072	①理工学研究科対象 ②社会情報学研究科(社会情報学コース)対象
専門職大学院案内	専門職大学院事務局	03-3409-8025	国際マネジメント研究科・法務研究科・会計プロフェッション研究科対象
キリスト教に関する相談(教会紹介など)	宗教センター(間島記念館1階)	03-3409-6537	
住所・氏名変更連絡先 校友会支部等連絡先紹介 校友会グリーンエリア利用の申込受付	青山学院校友会センター 青山学院校友会本部 (アイビーホール青学会館2階)	TEL. 03-3409-6645 TEL. 03-3409-9773 FAX. 03-5485-3616 校友会グリーンエリア専用 TEL. 03-3409-8628	校友センター http://www.aoyamagakuin.jp/acenter/ E-mail agkoyu@aoyamagakuin.jp 校友会 http://www.alumni-aogaku.jp/ E-mail alumni@aoyamagakuin.jp
学院の歴史資料、メソジスト教会関係資料閲覧	資料センター	03-3409-6742	資料閲覧希望の場合は、早めに連絡してください。 http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/
青学オープンカレッジの案内	青学オープンカレッジ事務局(間島記念館地下1階)	03-3409-8501	青学オープンカレッジウェブサイト http://www.j-aoyama.jp/
「青山学院 エバークリーン募金」などの受付	募金事務局(間島記念館1階)	TEL. 03-3409-6208 FAX. 03-3409-3890	「青山学院 エバークリーン募金」(維持協力会募金・奨学金募金・本多記念国際会議場建築募金)へのご寄付等の申込受付。
AOYAMA GREEN FESTIVAL (大学同窓祭)	大学同窓祭実行委員会事務局 (ウェスレー・ホール3階)	TEL. 03-3409-8990 FAX. 03-3409-8975 http://aogaku-doso.jp/	今年も9月23日(金・祝)に開催する予定です。実行委員としてお手伝いして下さる仲間を募集中です。
婚礼・会合施設	ブライダルサロン (アイビーホール青学会館内)	03-3409-8181(代表)	懇親会・同窓会・クラス会・OB会・アドグル・ゼミでの会合などにご利用ください。校友には、割引特典があります。 http://www.ivyhall.jp/

(※)相模原キャンパス

2011年度 学年初頭行事について

授業開始前には、書類配布や履修ガイダンス、学生証更新、健康診断など大切な行事があります。指定の日時に必ず登校してください。

書類配布・履修ガイダンス

日時・場所などの詳細は学生ポータルを確認してください。

学生証の更新

学生証裏面の在籍確認シールは、毎年4月に更新が必要です。新しい在籍確認シールの交付を受け、現住所、通学区間をボールペンで記入後、各自で貼り直してください。

青山キャンパス

日程	時間	場所
3月31日(木) 4月1日(金) 4月4日(月)	9:30~11:30 13:00~15:30	2号館2階
所要時間:約30分(混雑時) ※4月2日(土)は入学式当日の為、更新はできません。		
【第二部(夜間部)】	17:00~19:00	2号館2階

相模原キャンパス

日程	時間	場所
3月30日(水)	14:00~16:30	F307教室 F308教室
3月31日(木) 4月1日(金)	13:30~16:30	
※理工学研究科1年生、社会情報学研究科1年生は学生証を交付します。		

青山キャンパス所属の大学院生・専門職大学院生は学生ポータルまたは各掲示板をご確認ください

奨学金募集説明会

新規希望者のみの募集になります。

青山キャンパス

日程	時間	場所
4月4日(月)	15:30~	621教室 希望者はいずれかの説明会に出席してください。
4月5日(火)	13:00~ 18:00~	

相模原キャンパス

学部	日程	時間	場所
	3月30日(水)	13:15~	E201教室 E202教室 希望者はどちらかの説明会に出席してください。
	3月31日(木)	17:00~	
院	4月4日(月)	16:30~	E101教室

健康診断

(受診の義務:青山学院大学学生共通細則第9条)

日時・場所などの詳細は学生ポータルを確認してください。

健康診断を受診できなかった場合は、外部診療所へ行き自費で受診することになります。依頼書等が保健管理センター窓口にありますので、取りに来てください。健康診断未受診の場合、健康診断証明書の発行はできません(就職活動・教育実習・介護等体験・奨学金・体育集中講義等で必要となります)。

青山学院大学教育ローン

本学には、学部生・院生を対象とした銀行提携「教育ローン」制度があります。この制度は、青山学院と銀行が特別に提携し、無担保・低金利・在学期間中の元金返済据置等、一般の教育ローンより有利な条件を設定したものです。青山学院大学で学ぶ意志がありながら、経済的理由により修学を断念することのないよう、在学中の経済的な不安を解消し、勉学に専念できるよう配慮した経済支援制度です。

【特徴】

1. 一般の教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
2. 担保・保証人は不要です(学生本人が融資を受ける場合、年収により保証人が必要になります)。
3. 在学期間中の元金返済据置の制度もあります(在学中は利息のみを支払い、卒業後、元利を併せて返済することができます)。
4. 原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院に振込まれます。
5. 既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。

【利用資格】

本学学部生・院生の保護者または学生本人で銀行の定めた資格を有することが必要です。

【必要書類】

1. 資金使途確認資料…学費納付書等
2. 本人確認資料………印鑑証明書、住民票、運転免許証、健康保険証の写し等のいずれか1通
3. 所得確認資料………所得証明書、源泉徴収票等のいずれか1通

【注意事項】

1. 契約はすべて銀行と融資を受ける者が行います。
2. 融資は学費(授業料他)等の教育資金に限ります。
3. 銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に照会してください。

【提携銀行】

(代表問合せ支店)

三井住友銀行	渋谷支店お客様相談課	TEL. 03-3463-0101
みずほ銀行	渋谷中央支店ローン担当係	TEL. 03-3462-0313
三菱東京UFJ銀行	青山支店お客様相談課	TEL. 03-3409-3211

2011年度学事暦の変更について

第55号(2011年1月27日発行)に掲載しました2011年度学事暦(学部)について、下記のとおり変更となりました。

●2012年1月13日(金)

大学入試センター試験準備日(実施キャンパスのみ休講)

→青山キャンパスのみ休講

●2012年1月14日(土)

大学入試センター試験(15日(日)まで、14日(土)は実施

キャンパスのみ休講)→青山キャンパスのみ休講

2011年度 ペアレンツウィークエンド

本学では、大学後援会事業の一環として、大学の近況を保護者の皆さまにお知らせするとともに、ご子女の大学生活等についてのご相談やご意見をうかがい、それを大学運営に反映させることを目的に懇談会を実施しています。

2011年度ペアレンツウィークエンドは5月下旬からの開催を予定しており、対象の方には4月下旬以降にご案内いたします。また、下記ウェブサイトでも随時、情報を更新していきます。

<http://www.aoyama.ac.jp/target/parents/index.html>

【お問い合わせ先】庶務部庶務課 TEL. 03-3409-8568

青山学院大学で、美しく、豊かで、楽しい時間を —2011年度の「青学オープンカレッジ」—

公開講座を発展させ「青学オープンカレッジ」(有料)として新しいスタートを切ってから、2011年で3年目になります。本学の近くにある根津美術館、サントリー美術館、山種美術館、国立新美術館などの協力をえて開講している美術・芸術論、歌舞伎座や新橋演舞場での歌舞伎鑑賞講座、そしてジャズハウス「ボディ&ソウル」でジャズを聴くジャズ論など、豊かで楽しい青山学院大学らしい講座を中心にしてオープンカレッジの講座を企画してきました。これらに、2011年からは演劇論を学んだ後に劇団四季でミュージカルを鑑賞する講座も加わります。

もちろん、芸術・文化・音楽論だけでなく、ビジネス、環境、経済、法律、サイエンス、国際政治、「青山の英語」と銘打った英語講座、毎日新聞社記者による演劇・音楽論、そして本学出身の外交官による日本外交論など、じつに多彩な講座が並んでいます。その結果、初年度には約500人だった受講者数が昨年はその約2倍に増えており、2011年度は講座数を80に増やして、いっそうの充実と拡大をはかります。

また、昨年同様、連続講演会「青山リレートーク」(無料)に著名な講師の方々をお招きして講演会を開催します。昨年は、谷内正太郎、平川祐弘、芳賀徹各氏らの講演会を開きました。今年も各界の第一線の方々を講師にお招きします。青山学院大学らしい贅沢な学びの場をつくります。

青学オープンカレッジのますますの充実にご期待ください。青学オープンカレッジについての詳細は、下記ウェブサイトをご覧ください。

(副学長 土山 實男)

お問い合わせ先

青学オープンカレッジ事務局(間島記念館地下1階)

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL.03-3409-8501 FAX.03-3498-8361 <http://www.j-aoyama.jp/>

各講座の一覧・申込方法などの詳細を掲載したパンフレットをご希望の方は上記までお問い合わせいただくか、上記ウェブサイトよりお申し込みください。

「青山学院 エバーグリーン募金」のご案内

「青山学院 エバーグリーン募金」のもとに、目的別の募金活動を行っております。ぜひ、ご協力をお願いいたします。

本多記念国際会議場建築募金

青山キャンパスに建設中の新校舎6階に設けられる「本多記念国際会議場」(座席数562席)の建築資金に充当する募金です。

青山学院維持協力会募金

青山学院の財政基盤確立のために会員となってご寄付いただき、青山学院をサポートしていただく募金です。

青山学院奨学金募金

皆様方からのご寄付により奨学金を給付し、在校生を支援する募金です。

ご協力いただける場合は募金事務局へご連絡ください。資料をお送りいたします。

募金事務局(間島記念館1階)

TEL.03-3409-6208

FAX.03-3409-3890

2010年度 退職専任教員

2011年3月末日をもって退職される専任教員は次の方々です。(○印は定年退職される教員)

- 佐藤 紀子 文学部英米文学科 教授
- 池田 稔 教育人間科学部教育学科 教授
- 森山久留美 教育人間科学部心理学科 助手
- 福原 崇之 経済学部 助手
- 松下 正弘 経済学部経済学科 教授
- 杉山 学 経営学部経営学科 教授
- 寺東 寛治 経営学部経営学科 教授
- 小林 保彦 経営学部マーケティング学科 教授
- 中尾麻衣子 経営学部マーケティング学科 助教
- 高木誠一郎 国際政治経済学部国際政治学科 教授
- 山本 吉宣 国際政治経済学部国際政治学科 教授
- 井出 静 国際政治経済学部国際コミュニケーション学科 教授

- 柴田 徹 理工学部物理・数理学科 教授
- 渡邊 慎也 理工学部電気電子工学科 助教
- 藤松 信義 理工学部機械創造工学科 助教
- 馬渡 鎮夫 理工学部情報テクノロジー学科 教授
- 高井 康行 法務研究科法務専攻 特任教授
- 並木 秀明 会計プロフェッション研究科会計プロフェッション専攻 助手

その他の月日をもって退職された教員

- 坂口 周作 文学部英米文学科 教授
- 庄司 順一 教育人間科学部教育学科 教授
- 北村 紘 経済学部 助教
- 木本 篤志 理工学部化学・生命科学科 助教

News Index 2010.12~2011.2

2010年12月中旬~2011年2月下旬までの大学ウェブサイト「新着情報」の主なタイトルを掲載しています。

2010年12月

- タイリエゾンオフィス開所式およびタマサート大学との学術交流協定の調印式典を開催しました

2011年1月

- 理工学部 春山純志研究室の研究結果が、「Nature Nanotechnology」の誌面掲載に先立ち同誌電子版に掲載されると同時に、最近の同誌採録論文の中で最も意義のある論文としてLatest Highlightsに選ばれました
- 男子バスケットボール部が第86回天皇杯・第77回皇后杯全日本総合バスケットボール選手権大会に出場しました
- 法学研究科博士前期課程1年の安部祥太さんが、平成22年度刑事政策に関する懸賞論文で、「優秀賞」を受賞しました
- 第7回神奈川産学チャレンジプログラムにおいて、本学の2チームが「最優秀賞」を受賞しました

- 総合文化政策学部 真鍋一史教授の共著書がアメリカ社会学会の最優秀出版賞を受賞しました

- 昨年に引き続き、相模原市から陸上競技部(長距離ブロック)に「称讃の楯」が贈られました

2011年2月

- 理工学研究科博士前期課程2年の浅見弘規さんが、「第5回日本感性工学会春季大会優秀発表賞」を受賞しました
- 平成22年度「学生ビジネスプランコンテスト」において、経営学部の戒野ゼミのチームが「アイデア賞」を受賞しました
- 文学部日本文学科 日置俊次ゼミの学生が、第16回「前田純孝賞」の学生短歌コンクールで入賞しました
- 新燃岳被災者支援プロジェクトを発足。有志の学生がボランティアに向かいます

2011年度 一般入学試験、 大学入試センター試験利用入学試験志願者数

2011年度一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験は、全ての出願が終了し、志願者総数は53,961名(対前年775名増、101.4%)となりました。入学試験制度ごとの志願者数は下記のとおりです。

一般入学試験(全学部日程)	一般入学試験(個別学部日程)	大学入試センター試験利用入学試験
4,714名(昨年度5,143名)	34,540名(昨年度33,363名※1)	14,707名(昨年度14,680名※2)

※1は、2010年度に実施した文学部第二部英米文学科の志願者数を除きます。

※2は、2010年度に実施した理工学部後期日程の志願者数を除きます。

2011年度 オープンキャンパス開催日程

全日程とも、10:00～16:00開催。予約不要、入退場自由。詳細については、決定次第、大学ウェブサイトにてお知らせします。

開催日	実施キャンパス	文学部	教育人間科学部	経済学部	法学部	経営学部	国際政治経済学部	総合文化政策学部	理工学部	社会情報学部	大学院説明会
7月17日(日)	青山	○	○					○	○		
7月18日(月・祝)	青山			○	○	○	○			○	○*
7月24日(日)	相模原								○	○	○*
8月27日(土)	青山	○	○					○	○		
8月28日(日)	青山			○	○	○	○			○	

*大学院説明会は、7月18日(月・祝)は理工学研究科を除く全研究科、7月24日(日)は理工学研究科のみが対象です。青山キャンパス実施日は、青山学院女子短期大学も同日開催します。



青山キャンパスでのボランティア学生のみなさん



相模原キャンパスでのボランティア学生のみなさん

オープンキャンパス学生ボランティア募集!!

約40,000名の来場があるオープンキャンパスにて、受付・案内などの作業をボランティアでお手伝いいただける学生(本学学生のみ)を募集します(5月中旬以降募集予定)。学生ボランティア募集要項の配布、申し込み受付などの詳細は、決定次第、学生ポータル等でお知らせします。ぜひご協力ください。

Club&Circle 6 青山子ども会

子どもたちと一緒に遊び、一緒に成長します

主に教員を目指している人、子どもが好きな人、ボランティアに関心がある人などで構成される「青山子ども会」では、毎週土曜日に相模原キャンパス近くの小学校や子どもセンターを借りて、近隣の小学生と一緒に遊んでいます。毎回30～40人の小学生が集まり、工作をしたり、鬼ごっこをしたり、楽しい時間を過ごしますが、特別活動として夏にはキャンプ、冬にはクリスマス会も行っています。

青山子ども会の一番の特色は、企画からイベントの実施まですべて学生の力で運営していることです。会員が集まって行われるミーティングでは、活動内容の決定とともに、これまでの反省点もしっかり見直します。保護者や小学校の先生からの大きな信頼がなければ、大学生だけのグループに子どもを預けてはいただけません。私たちは子どもたちとの交流に真剣に取り組んでおり、その真摯な思いがあるからこそ、地域の方々との信頼関係を築けているのです。

子どもと接する楽しさと難しさを実感し、私も教員という夢と真正面から向き合えるようになりました。「教育」について学べる場でもあるので、興味のある人は、ぜひ一緒に子どもたちとふれあいましょ。

(会長：教育人間科学部教育学科2年 三原 和也)



夏休みの小学校で



体育館でのレクリエーション

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2011青山学院大学

- AGUニュースのバックナンバーは、大学ウェブサイトでご覧いただけます。
 - AGUニュースを確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。
- 事務取扱窓口 青山キャンパス→学生部厚生課
相模原キャンパス→スチューデントセンター・学生生活グループ

青山学院大学 ● 2011年3月18日発行 ●

